

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4472400136		
法人名	有限会社 きらく苑		
事業所名	グループホーム きらく苑 (たんぼぼグループ)		
所在地	大分県 大分市大字馬場287番地		
自己評価作成日	平成22年3月1日	評価結果市町村受理日	平成22年7月13日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	福祉サービス評価センターおおいた		
所在地	大分県大分市大津町2丁目1番41号		
訪問調査日	平成22年3月25日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・利用者自身の希望を大切に、常に本人と家族・職員で相談しながら日々のさまざまな事を決めていきます。自分で選ぶ機会を多く提供し、選択する楽しみを感じていただくように配慮しています。提供している食事については、佐賀関地区という地の利を活かし新鮮な海の幸や近くで採れた野菜をふんだんに使用し、近隣に住まれている年配の介護者による調理支援により高齢のお年寄りに馴染みのある献立や味付けに工夫しています。(可能な限り国産の食材・調味料を使用しています)

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

・利用者の生活面・医療面について、家族や医療・行政などの関係者と積極的に連携を持ち、課題解決に取り組んでいる。
 ・重度化した利用者や新入居者の初期対応など、それぞれの場面で、丁寧に詳細なアセスメントを基に、介護計画を話し合い、質の高い支援・介護を行っている。
 ・管理者は、職員の人材育成に力を入れており、職員も積極的に、外部・内部研修に取り組んでいる。その学びを、利用者還元し、事業所運営に活かしている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域密着型サービスとして職員全員で話し合い理念の変更をした。玄関に掲示・日誌にファイルしたりポケットに携帯して実践につながるよう努力している。	管理者・職員は、事業所の目指す理念をもとに、日々のケアに取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	運営推進会議に老人会長・民生委員の方にも参加いただき自治会の総会や老人会の誕生会に参加している。御神輿や獅子舞にも立ち寄ってもらったり、老人会の方に来苑していただいたりしている。	地域からの行事案内には必ず出席している。老人会や地域の役員のほか、様々なボランティアを受け入れている。管理者・職員は、認知症専門事業所として、地域貢献の高い意識を持っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域包括支援センターの研修会に参加し、地域のケアマネージャーの方と一緒に研修する事により、認知症の知識や情報を共有し、高齢者の生活に役立つよう取り組んでいる。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	日頃のサービスや評価への取り組み・進捗状況を報告相談し、重要事項の変更等話し合いの上、サービスの向上に活かしている。	利用者家族全員に、会議案内を出しており、毎回2～3家族の出席がある。事業所からの報告以外に、参加者からの提案や質疑に、真摯に対応し、取り組みが行っている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営規程の変更・重要事項の変更等相談に乗って頂き、一緒にサービスの向上に取り組んでいただいている。運営推進会議に毎回出席していただき、折に触れ助言をいただいている。	利用者の生活や医療など、様々な面で積極的に相談・話し合いをする機会を持ち、課題解決に取り組んでいる。市町村担当者とのコミュニケーションも取っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	外部研修に積極的に参加し、苑内の研修も定期的に行っている。玄関の施錠はしていません。ポスターを休憩室に掲示している。マニュアルを作成している。	管理者・職員共に、身体拘束の理解ができており、利用者家族の理解を得るための取り組みや、二つのユニットで協力体制をつくり、リスク回避の取り組みを行っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	外部研修に参加し、身体拘束廃止と共に苑内研修を行い、管理者が、入居者に聞き取り調査を行っている。		

事業者名:グループホームきらく苑(たんぼぼグループ)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	入所後、成年後見制度を活用しはじめた方がおり、現在も関係者の方と円滑に活用できている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	丁寧に書面をもって説明しており、迷っている時は急がず強制しないよう、常に相談しながら納得のいくように努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入所者へは「楽しい暮らしアンケート」を行ったり、何気ない会話の中で希望や苦情を話せるように努めている。入居者の希望で職員の勤務体制を変更した事もある。家族へ来苑時に必ず声をかけている。	運営推進会議は、全家族へ案内し、参加を呼び掛けている。管理者は、利用者・家族との日常の会話の中からも、意見や希望の把握に努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に1回行っている全体ミーティングに出席し意見を聞いている。代表者も毎日出勤しているため、日頃から個別にもコミュニケーションを取れるように心がけている。	職員間のコミュニケーションが取れていて、管理者と職員との話し合いのもとで、日常の業務やケア、事業所運営など様々な事柄を決定している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	研修費用の事業所負担や当日出勤扱いなど研修に参加しやすい体制をとり、資格習得後の給与変更、生活の状況により勤務時間を優遇する等働きやすい環境整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内で研修マニュアルを作成し、新人及び他の職員の力量を把握し、研修計画を考えている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	宅老所・グループホーム大分連絡協議会へ参加し、研修会にも毎回参加している。また、他のグループホーム職員の研修の受け入れも行っている。		

自己	外部	項目	外部評価	
			自己評価 実践状況	実践状況 次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人や家族と十分に話し合い、ICF・センター方式を用いながら正確な情報や思いを受け止め関係作りに努めながら介護計画を立てている。	
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	なるべくたくさんの時間家族と話し合い、信頼関係を作るよう努めている。グループホームの対応では無いと思われる方にも家族の納得の為、お試し入居を行う事もある。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人と家族の今の気持ちに答え、他のサービスの希望も聞きながら入居を検討している。サービス提供中に本人の希望により在宅所への住み替えの支援も行なったことがある。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員が利用者から教えてもらったり、利用者同士が支えあう等の関係を築くよう努めている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	常に家族と相談しながら時には介護の一端を家族に担っていただき、本人と一緒に支えています。(入浴・受診の援助等、宿泊していただいた事もあります。)	
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	お孫さんが訪問された時などは、ジュースやお菓子などを提供し少しでも会いに来てくださる回数が増えるよう努めている。差し入れを持ってきてくれた時は、一緒に食べていただく。手紙や電話を勧めている。	利用者の想いを重視しながら、家族や対象者に配慮した、関係継続の支援を行っている。
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員がいつも話し合い入居者同士の性格や症状(物取られ妄想等)に注意しながら、席順などを決めており、支えあえるよう(仲良くできるように)に支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	家族からの相談に乗っている(退所後、期間を経てから再度入居した例もある)		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の希望を聞き取る為に「楽しい暮らしアンケート」を実施しており、その内容を家族に伝えたり相談するなどしながらアセスメントシートを変更し本人の希望把握を行っている。	日々の関わりの中で、利用者本人の思いや希望の把握に努めている。利用者が、周囲の人に気兼ねなく語れるよう、利用者の居室で向き合って話を聞く工夫を行っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用開始時より本人に折に触れ話を聞き家族に確かめたり、親戚の方の訪問時に一緒に話しに加わったりしながら、把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日常の様子を職員で話し合い、センター方式やICFを活用し、主治医と相談しながら総合的に把握するように努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人・家族の思いを聞き、1~3ヶ月に1度職員全員で意見交換やモニタリングを行い主治医の意見も参考にした介護計画を立てている。(主治医にも介護計画書を渡している)	丁寧に詳細なアセスメントを基に、利用者・家族の希望を反映させた質の高い、実践的な介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別にファイルを用意しケア・医療の結果等工夫した記録用紙を作成・記録し、申し送りや介護計画作成時に利用している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族が忙しく病院受診できない時は職員がお連れしたり、調理師免許を持つ職員を有する事により、多くの食材を利用し、状態に応じた利用者の食への支援ができる。医療連携も行っている。		

事業者名:グループホームきらく苑(たんぼぼグループ)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	民生委員さん等を通じ、入居者の方々の作成した絵手紙などを地域の文化祭に出品したり、子どもたちとのふれあいのために学生の体験学習等を受け入れたりしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	「医療体制と看取りについての確認書」を交わし本人・家族の希望の病院へ受診の支援・訪問診療などの支援をしている。	希望のかかりつけ医の受診を行っている。調剤薬局を統一し、複数の受診先の内服薬が効果的に服用できるように支援している。利用者家族の希望や経済的問題など、様々な課題に関係者と積極的に関わりを持ち、より良い医療を受けられるよう支援を行っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	常勤の看護師がおり、介護職も兼務していることから常に健康管理に注意し、相談しながら支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	地域の病院主催の研修に参加することにより相談員の方や医師・看護師の方と情報交換や相談をする事ができ、連携が上手くできるようになった。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に「医療体制と看取りについての確認書」を交わし、変化があった時には、常に話し合いながら方針を決めている。	重度化の際は、利用者・家族の意向を確認し、関係機関・管理者・職員で連携を取りながら、取り組む方針としている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	一次救命処置の講習会に参加し、緊急時の対応メモを携帯・苑の中心にわかり易い絵入りマニュアルを設置している。24時間対応してくださる医師がおり携帯電話の番号を教えていただいている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回避難訓練を行っており、地域の消防の方も折に触れ見に来てくださる。(消防法の改正なども消防署に相談している)	事業所の災害備品の定期点検日に、業者立会いの下、実際に機材を利用した訓練を行っている。管理者は、甲種防火管理者研修を受講していて、高い防火意識を持っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの性格に配慮した声かけを行い、記録などが苑外の方の目に触れないようにしている。(名前をファイルの背表紙に書かない等)	利用者個々の性格に配慮した呼称を使い、個別に話を聞く際は、周囲に気兼ねなく話せるように配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	外出の希望・食事の希望・入浴するかどうか等希望を常に伺い、プレゼントやケーキ等提供する時は出来るだけ多くの種類を準備し自分で選んでいただく楽しみを支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な1日の流れはあるが、必ずしなければならないことは無く、朝眠い方には少し時間を下げて食事を提供したり、リクレーションの内容を利用者の方に決めてもらうなどしている。(参加も自由です)		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣服の着替えは本人の意向で決めており、支援が必要な方には一緒に考えながら決めるようにしている。地域の美容師さんが来て下っている。希望があればヘアカラーもして下さる。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	季節の食材を心掛けテレビを消して食事に集中し楽しめるようにしている。食材の好き嫌い・手伝いたいかを聞き取り食事を楽しめる環境に努めている。地の利を生かした新鮮な魚・野菜を中心に提供している	地産地消・安心安全な食材を選択し、その日の利用者の心身の状況に合わせた、食材選択・メニュー変更や形態の工夫を行っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量の把握をし、水分が不足気味の方には、好きな飲み物を提供したり、夜間水分が欲しい方には、寝る前の水差しを準備したりしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、自分で出来る方には声かけをし、困難な方には介助・支援を行なっている。		

事業者名:グループホームきらく苑(たんぼぼグループ)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	状態の悪い時以外は、オムツを使用せず脱ぎ着のしやすいハビリパンツ・尿パッドを利用し、時間を見てトイレ誘導している。	利用者の尊厳を大切に、さりげない声掛け・援助に努めている。運営推進会議で提案された「排泄パターン」を把握した支援にも取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	多くの種類の野菜料理を提供し、排便しやすい食べ物を見つけ薬に頼らない排泄の支援を心がけている。地域の病院主催の栄養の研修に毎月参加し、色々な相談に乗ってもらっている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	利用者に希望を聞き今の時間に決めている(汚染があった場合は1日中何時でも入浴できる。夜の入浴希望があれば対応する。入浴時間は本人のペースに合わせ長い人も短い人もいる)	週3回の入浴を基本としているが、臨機応変に対応をしている。利用者・職員の精神的・身体的負担とならないように、工夫した入浴支援を行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	主治医の意見も伺い各人の生活リズムに合わせてたり日中活動(体操・カラオケ等)を支援したり夕食後のおやつを提供したり、希望の方には夜間用水分を準備するなど気持ちよく眠れるように支援している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の管理・受診日等を専用のカレンダーで把握し複数の病院受診の方については、1箇所の薬局にお願いし副作用や飲み合わせの管理を行っている(薬の変更時には他の医療機関へ連絡している)		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	勤務歴や趣味・性格に合わせて生活上の役割を手伝ってもらっている(食器洗い・掃除等)感謝の言葉掛けを忘れないようにし、レクリエーションも希望を伺いながら行っている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	家族の希望も伺い、可能な限り支援している。家族とは何時でも自由に外出・外泊でき内服薬の準備をしてお渡ししている。個人的な希望については、他の入居者に配慮しながら支援している。	「利用者が外出を楽しめるように」との考えのもと、身体機能やレベルに合わせた外出を行い、介護度の重度化にともない集団外出が困難になるという課題の解決が図られている。	

事業者名:グループホームきらく苑(たんぼぼグループ)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族と話し合ってお金を持っている方もあり、一緒に買い物に行くこともあり、頼まれて買ってくる事もある。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	支援している。本人の希望により1日に何度も電話をかけることもある。(切手・ハガキ・便箋などお渡しする事もある)		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者作成による季節感のある貼り絵や飾り(絵手紙・季節の飾り・花等)を常に飾っている。中庭・池が居間から眺められるようになっている。明るさ・温度・湿度も常に気を配っている。	明るく、居心地の良い共用空間となっている。複数の利用者が集える場や、1人で過ごすことができる空間作りを行っている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファを置いたり、自由に中庭へ出る事が出来る。リビングの中には畳の場所も設けている。隣のユニットの入居者と職員とは、なじみの環境にあり、気軽に行ける環境にある。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	持ち込む物の決まりは無く、仏壇を置いている方もいる。利用者自身で模様替えもしており、自由に居室を利用している。	利用者の個性に合わせた居室作りが行われている。居室は、利用者自身が周りの人と離れて、ゆっくりと過ごすことが出来るよう配慮している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	個人の状態に合わせ部屋の様子・場所を変えない工夫や自分や家族の写真を飾ったり、自分専用品(湯飲み等)を使用している。建物内は完全バリアフリーにしており居室の位置や手摺の配慮をしている。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4472400136		
法人名	有限会社 きらく苑		
事業所名	グループホーム きらく苑 (すずらんグループ)		
所在地	大分県 大分市大字馬場287番地		
自己評価作成日	平成22年3月1日	評価結果市町村受理日	平成22年7月13日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	福祉サービス評価センターおおいた		
所在地	大分県大分市大津町2丁目1番41号		
訪問調査日	平成22年3月25日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・利用者自身の希望を大切に、常に本人と家族・職員で相談しながら日々のさまざまな事を決めていきます。自分で選ぶ機会を多く提供し、選択する楽しみを感じていただくように配慮しています。提供している食事については、佐賀関地区という地の利を活かし新鮮な海の幸や近くで採れた野菜をふんだんに使用し、近隣に住まれている年配の介護者による調理支援により高齢のお年寄りに馴染みのある献立や味付けに工夫しています。(可能な限り国産の食材・調味料を使用しています)

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

※1ユニット目に記載

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域密着型サービスとして職員全員で話し合い理念の変更をしました。玄関に掲示・日誌にファイルしたりポケットに携帯して実践につながるよう努力している		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	運営推進会議に老人会長・民生委員の方にも参加いただき自治会の総会や老人会の誕生会に参加しています。御神輿や獅子舞にも立ち寄ってもらったり、老人会の方に来苑していただいたりしている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域包括支援センターの研修会に参加し地域のケアマネージャーの方と一緒に研修する事により、認知症の知識や情報を共有し、高齢者の生活に役立つよう取り組んでいる。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	日頃のサービスや評価への取り組み・進捗状況を報告相談し、重要事項の変更等話し合いの上、サービスの向上に活かしている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営規程の変更・重要事項の変更等相談に乗って頂き、一緒にサービスの向上に取り組んでいただいている。運営推進会議に毎回出席していただき、折に触れ助言をいただいている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	外部研修に積極的に参加し、苑内の研修も定期的に行っている。玄関の施錠はしていません。ポスターを休憩室に掲示している。マニュアルを作成している。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	外部研修に参加し、身体拘束廃止と共に苑内研修を行い、管理者が、入居者に聞き取り調査を行っている。		

事業者名:グループホームきらく苑(すずらんグループ)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	入所後、成年後見制度を活用しはじめた方がおり、現在も関係者の方と円滑に活用できている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	丁寧に書面をもって説明しており、迷っている時は急がず強制しないよう、常に相談しながら納得のいくように努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入所者へは「楽しい暮らしアンケート」を行ったり、何気ない会話の中で希望や苦情を話せるように努めている。入居者の希望で職員の勤務体制を変更した事もある。家族へ来苑時に必ず声をかけている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に1回行っている全体ミーティングに出席し意見を聞いている。代表者も毎日出勤しているため、日頃から個別にもコミュニケーションを取れるように心がけている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	研修費用の事業所負担や当日出勤扱いなど研修に参加しやすい体制をとり、資格習得後の給与変更、生活の状況により勤務時間を優遇する等働きやすい環境整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内で研修マニュアルを作成し、新人及び他の職員の力量を把握し、研修計画を考えている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	宅老所・グループホーム大分連絡協議会へ参加し、研修会にも毎回参加している。また、他のグループホーム職員の研修の受け入れも行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人や家族と十分に話し合い、ICF・センター方式を用いながら正確な情報や思いを受け止め関係作りに努めながら介護計画を立てている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	なるべくたくさんの時間家族と話し合い、信頼関係を作るよう努めている。グループホームの対応では無いと思われる方にも家族の納得の為、お試し入居を行う事もある。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人と家族の今の気持ちに答え、他のサービスの希望も聞きながら入居を検討している。サービス提供中に本人の希望により在宅所への住み替えの支援も行なったことがある。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員が利用者から教えてもらったり、利用者同士が支えあう等の関係を築くよう努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	常に家族と相談しながら時には介護の一端を家族に担っていただき、本人と一緒に支えています。(入浴・受診の援助等、宿泊していただいた事もあります。)		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	お孫さんが訪問された時などは、ジュースやお菓子などを提供し少しでも会いに来てくださる回数が増えるよう努めている。差し入れを持ってきてくれた時は、一緒に食べていただく。手紙や電話を勧めている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員がいつも話し合い入居者同士の性格や症状(物取られ妄想等)に注意しながら、席順などを決めており、支えあえるよう(仲良くできるように)に支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	家族からの相談に乗っている(退所後、期間を経てから再度入居した例もある)		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の希望を聞き取る為に「楽しい暮らしアンケート」を実施しており、その内容を家族に伝えたり相談するなどしながらアセスメントシートを変更し本人の希望把握を行っている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用開始時より本人に折に触れ話を聞き家族に確かめたり、親戚の方の訪問時に一緒に話しに加わったりしながら、把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日常の様子を職員で話し合い、センター方式やICFを活用し、主治医と相談しながら総合的に把握するように努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人・家族の思いを聞き、1~3ヶ月に1度職員全員で意見交換やモニタリングを行い主治医の意見も参考にした介護計画を立てている。(主治医にも介護計画書を渡している)		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別にファイルを用意しケア・医療の結果等工夫した記録用紙を作成・記録し、申し送りや介護計画作成時に利用している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族が忙しく病院受診できない時は職員がお連れしたり、調理師免許を持つ職員を有する事により、多くの食材を利用し、状態に応じた利用者の食への支援ができる。医療連携も行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	民生委員さん等を通じ、入居者の方々の作成した絵手紙などを地域の文化祭に出品したり、子どもたちとのふれあいのために学生の体験学習等を受け入れたりしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	「医療体制と看取りについての確認書」を交わし本人・家族の希望の病院へ受診の支援・訪問診療などの支援をしている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	常勤の看護師がおり、介護職も兼務していることから常に健康管理に注意し、相談しながら支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	地域の病院主催の研修に参加することにより相談員の方や医師・看護師の方と情報交換や相談をする事ができ、連携が上手くできるようになった。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に「医療体制と看取りについての確認書」を交わし、変化があった時には、常に話し合いながら方針を決めている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	一次救命処置の講習会に参加し、緊急時の対応メモを携帯・苑の中心にわかり易い絵入りマニュアルを設置している。24時間対応してくださる医師がおり携帯電話の番号を教えてください。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回避難訓練を行っており、地域の消防の方も折に触れ見に来てくださる。(消防法の改正なども消防署に相談している)		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの性格に配慮した声かけを行い、記録などが苑外の方の目に触れないようにしている。(名前をファイルの背表紙に書かない等)		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	外出の希望・食事の希望・入浴するかどうか等希望を常に伺い、プレゼントやケーキ等提供する時は出来るだけ多くの種類を準備し自分で選んでいただく楽しみを支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な1日の流れはあるが、必ずしなければならないことは無く、朝眠い方には少し時間を下げて食事を提供したり、リクレーションの内容を利用者の方に決めてもらうなどしている。(参加も自由です)		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣服の着替えは本人の意向で決めており、支援が必要な方には一緒に考えながら決めるようにしている。地域の美容師さんが来て下っている。希望があればヘアカラーもしてくださる。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	季節の食材を心掛けテレビを消して食事に集中し楽しめるようにしている。食材の好き嫌い・手伝いたいかを聞き取り食事を楽しめる環境に努めている。地の利を生かした新鮮な魚・野菜を中心に提供している		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量の把握をし、水分が不足気味の方には、好きな飲み物を提供したり、夜間水分が欲しい方には、寝る前の水差しを準備したりしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、自分で出来る方には声かけをし、困難な方には介助・支援を行なっている。		

事業者名:グループホームきらく苑(すずらんグループ)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	状態の悪い時以外は、オムツを使用せず脱ぎ着のしやすいリハビリパンツ・尿パッドを利用し、時間を見てトイレ誘導している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	多くの種類の野菜料理を提供し、排便しやすい食べ物を見つけ薬に頼らない排泄の支援を心がけている。地域の病院主催の栄養の研修に毎月参加し、色々な相談に乗ってもらっている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	利用者に希望を聞き今の時間に決めている(汚染があった場合は1日中何時でも入浴できる。夜の入浴希望があれば対応する。入浴時間は本人のペースに合わせ長い人も短い人もいる)		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	主治医の意見も伺い各人の生活リズムに合わせてたり日中活動(体操・カラオケ等)を支援したり夕食後のおやつを提供したり、希望の方には夜間用水分を準備するなど気持ちよく眠れるように支援している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の管理・受診日等を専用のカレンダーで把握し複数の病院受診の方については、1箇所の薬局にお願いし副作用や飲み合わせの管理を行っている(薬の変更時には他の医療機関へ連絡している)		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	勤務歴や趣味・性格に合わせて生活上の役割を手伝ってもらっている(食器洗い・掃除等)感謝の言葉掛けを忘れないようにし、レクリエーションも希望を伺いながら行っている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	家族の希望も伺い、可能な限り支援している。家族とは何時でも自由に外出・外泊でき内服薬の準備をしてお渡ししている。個人的な希望については、他の入居者に配慮しながら支援している。		

事業者名:グループホームきらく苑(すずらんグループ)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族と話し合ってお金を持っている方もあり、一緒に買い物に行くこともあり、頼まれて買ってくる事もある。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	支援している。本人の希望により1日に何度も電話をかけることもある。(切手・ハガキ・便箋などお渡しする事もある)		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者作成による季節感のある貼り絵や飾り(絵手紙・季節の飾り・花等)を常に飾っている。中庭・池が居間から眺められるようになっている。明るさ・温度・湿度も常に気を配っている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファを置いたり、自由に中庭へ出る事が出来る。リビングの中には畳の場所も設けている。隣のユニットの入居者と職員とは、なじみの環境にあり、気軽に行ける環境にある。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	持ち込む物の決まりは無く、仏壇を置いている方もいる。利用者自身で模様替えもっており、自由に居室を利用している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	個人の状態に合わせ部屋の様子・場所を変えない工夫や自分や家族の写真を飾ったり、自分専用品(湯飲み等)を使用している。建物内は完全バリアフリーにしており居室の位置や手摺の配慮をしている。		